

タンパク質結晶構造解析ビーム ラインユーザーの皆様へ

高エネルギー加速器研究機構

物質構造科学研究所

構造生物学研究センター

千田俊哉

PAC申請書の書き方

現在PFでは課題審査を改善していくために、放射光実験施設を中心に作業を進めているところです。これとは別に、生命科学I（いわゆる、タンパク質結晶構造解析）の分科会においても、申請書のあるべき姿に関して議論をしてきました。生命科学Iの分科は、他の分科と性質が大きく異なる部分も多く、必ずしも現在の申請書の形態が分野の課題審査に最適であるとは思いません。この点に関しては、PACの全体委員会で積極的に意見表明を行い、全体の改訂に於いてより良い形に変更できればと思っています。

一方で、申請者側の申請書の書き方もまちまちで、適切な審査を難しくしている部分もあります。これまで審査をしてきた経験から、以下のような内容を申請書に盛り込んでいただけるよう、申請者の皆様にはお願いします。申請書を書く際には以下の点を確認していただき、適切な審査にご協力いただければと思います。

- 具対的な試料名を明確に書いてください。これがわからないと生物学的な観点からの審査が難しいです（G型課題は成果公表が原則です。試料名を書かないという選択肢はありません。内容を秘密にする場合には、アカデミアでも成果を占有できる施設利用（有料）を利用してください）。
- タイトルは、構造解析の対象がわかるように具体的に書いてください。
- 新規性やインパクトを明確に書いてください。
- 現有の課題と関係がある場合は、差を明確にしてください。
- 添付のExcel表と本文の内容が対応しているか、確認してください
- 概要説明（研究の全体像と目的がわかるような）の図を別紙として添付することを強く奨励します。
- 全自動測定を積極的に使ってみてください

旅費に関して

これまでPFでは、共同利用実験を行う研究者の方にある程度の旅費を支給してまいりました。しかし、続く予算の削減により、十分な旅費の支給が困難になっております。この状態を改善すべく施設側としましても努力は続けておりますが、ユーザーの皆様からも色々ご協力を頂きたいと考えております。つまり、**外部資金をお持ちのユーザーの方は、極力その中から旅費を支出していただき、可能であれば旅費を辞退していただければと考えております。**研究費の環境も厳しくなっていることは承知の上ですが、運転時間確保など優先して資金を振り向けるべき部分もあり、ユーザーの皆様のご協力をいただければと考えております。特に、旅費に関しましては**大学院生など若手に対する支援に重点を置く**という方針になっておりますので、是非ともご理解の程、よろしくお願い致します。詳しくは、ホームページにて2020年度の新しい旅費基準が公開されておりますので、必ずご確認下さい (<https://www2.kek.jp/imss/notice/2020/03/251600.html>)。PFとしましても、運転時間確保に向けて産業利用促進日などを設け、運転経費を少しでも増やすための努力を行なっております。ユーザーの皆様におかれましても予算確保のためにご協力を宜しくお願いいたします。

また、構造生物学ビームラインにおきましては、来季（2020年度）より**通常のビームタイムにおいても全自動測定を受け付けております。**全自動測定を御利用いただければ、ドライシッパーの輸送費だけで測定が可能ですし（現時点では、輸送費はユーザーの負担となります）、時間の有効利用にもつながると思われまます。**特に、化合物スクリーニングを行う測定や変異体の測定には威力を発揮**すると思っておりますので、是非とも積極的にご利用いただければと思います。詳しくは、ビームラインスタッフまでお尋ね下さい。